

10月25日の日経新聞に「CO₂から生分解性プラ」という記事が掲載されました。

(要約)

- ・カネカは二酸化炭素を原料に生分解性プラスチックを製造することに成功した。
- ・CO₂を有機物に変える微生物を利用するが、この度容量200ℓの培養実証装置を稼働し、数キログラム程度のプラスチックを生産した。得られたプラスチックを使って、試作品となる食器を完成させた。
- ・利用する微生物は「水素酸化細菌」という微生物で、CO₂、水素、酸素を食べ、プラスチックのもととなる有機物を生成し、これを体内に蓄える性質を有する。
- ・カネカは既に植物性油脂を原料とする生分解性プラスチックを生産・販売しているが、CO₂を利用するプラスチックも成分はこれと全く同じもの。植物性油脂は原料コストが課題となっているが、新方式では無尽蔵にあるCO₂が活用できる。
- ・今後生産効率を向上させ、27年度には3000ℓ、30年度には10万ℓと培養槽を大きくし、33年度の事業化を目指す。高砂工業所内の発電設備から排出されるCO₂を活用することも検討している。

以上